

令和6年度 体育第5学年 評価計画

月	単元名	時数	単元の目標	評価規準		
				【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
4月 1月	体ほぐしの運動	2	・いろいろな体ほぐしの運動を行い、仲間と体を動かす楽しさや心地よさを味わう。	・体ほぐしの運動の行い方がわかる。 ・手軽な運動を行い、体を動かす楽しさや心地よさを味わうことを通して、自己や仲間の心と体の状態に気付いたり、仲間と豊かに関わり合ったりすることができる。	・心と体の関係を理解し、友達と関わり合ったりするなどのねらいに応じた活動を選んでいる。 ・様々な運動を行って比較することで、気付きや関わり合いが深まりやすい運動を選んでいる。 ・運動を行うと心と体が軽やかになったことやみんなでリズムに乗って運動すると楽しさが増したことを学習カードに書き、振り返りの時間に発表している。	・体ほぐしの運動に積極的に取り組んでいる。 ・運動を行う際の約束を守り、仲間と助け合っている。 ・運動を行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たしている。 ・運動の行い方について仲間の気付きや考え、取組のよさを認めている。 ・運動の場の危険物を取り除くとともに、用具の使い方や周囲の安全に気を配っている。
4月 9月 1月	体の動きを高める運動	5	・体の動きを高めるためのいろいろな運動の行い方を理解し、動きを工夫して体力を高める。 ・体の動きを高めるための運動 (ア)巧みな動きを高めるための運動 人や物の動き、または場所の広さや形状などの環境の変化に対応して、タイミングやバランスよく動いたり、リズムカルに動いたり、力の入れ方を加減したりする体の動きを高めることをねらいとして行う運動ができる。 (イ)力強い動きを高めるための運動 自己の体重を利用したり、人や物などの抵抗に対してそれを動かしたりすることによって、力強い動きを高めることをねらいとして行う運動ができる。 (ウ)動きを継続する能力を高めるための運動 一つの運動又は複数の運動を組み合わせて一定の時間続けて行ったり、一定の回数を反復して行ったりすることによって、動きを継続する能力を高めることをねらいとして行う運動	・自己の体力の状況を知ったり、様々な動きを試したりすることを通して、体の動きを高めるためにどのような運動に取り組むとよいか、自己の課題を見付けている。 ・体の動きを高めるために、自己に合った運動の行い方を選んでいる。 ・どのようなポイントを意識して運動を行うと動きが高まるのかを見付け、それを生かした運動を工夫している。 ・グループで工夫した運動の行い方を、他のグループに例示して見せたり、言葉で伝えたりしている。 ・感想を伝える場面で、言葉のかけ方や並び方などの条件を工夫することで楽しく運動が行えたことを他者に説明している。	・体の動きを高める運動に積極的に取り組んでいる。 ・運動を行う際の約束を守り、仲間と助け合っている。 ・運動を行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たしている。 ・運動の行い方について仲間の気付きや考え、取組のよさを認めている。 ・運動の場の危険物を取り除くとともに、用具の使い方や周囲の安全に気を配っている。	
5月	表現運動・はげしく〇〇する！	10	・生活や自然の中から、激しい感じや急変する感じなどの題材を見つけ、表したいイメージを感じを込めて踊る。	・表現「はげしく〇〇する」の行い方がわかる。 ・表現「はげしく〇〇する」のいろいろな題材からそれらの主な特徴を捉え、表したい感じやイメージをひと流れの動きで即興的に表現したり、グループで簡単なひとまとまりの動きにして表現したりすることができる。 ・題材から動きの変化や起伏の特徴を捉え、そこに感情の変化や起伏を重ねていくことができる。 ・表したい感じやイメージを、素早く走る一急に止まる、ねじる一回転、跳ぶ一転がるなどの動きで変化を付けたり繰り返したりして、激しい感じや急変する感じをメリハリ(緩急・強弱)のあるひと流れの動きにして即興的に踊ることができる。	・表現「はげしく〇〇する」のポイントがわかり、自分の課題の解決策を考えたり、課題に応じた見合いや交流の仕方などを選んでいく。 ・表現したい「イメージを強調する」ために、差のある動きや群の動きなどで変化を付ける方法を選んでいる。 ・表現したい「イメージを伝える」ために、一番盛り上げたい場面を明確にし、急変する場面や取り入れる群の動きを選んでいる。 ・表したい感じやイメージが表現され、踊りの特徴を捉えているかなどを確認するための仕方を選んでいる。 ・課題の解決のために友達と見合ったところを他者に伝えている。	・表現「はげしく〇〇する」の表したい感じやイメージを表現する運動に積極的に取り組んでいる。 ・表現に取り組む際に、互いの動きや考えのよさを認め合っている。 ・表現にグループで取り組む際に、仲間と助け合っている。 ・表現を行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たしている。 ・活動する場所の危険物を取り除くとともに、仲間とぶつからないよう、場の安全に気を配っている。
5月	フォークダンス・日本の民謡	2	・「阿波踊り」「ソーラン節」「春駒」など、日本の踊りの特徴を捉えてみんなで踊る。	・日本の民謡の行い方がわかる。 ・日本の民謡の特徴を捉え、基本的なステップや動きを身に付けて、音楽に合わせてみんなで楽しく踊って交流することができる。 ・日本の民謡に共通する特徴やそれぞれの踊り方の特徴を捉え、構成された基本的な踊り方を身に付けて踊ることができる。 ・阿波踊り(徳島県)や春駒(岐阜県)などの軽快なリズムの踊りでは、軽快な足さばきや手振りや踊ることができる。 ・「ソーラン節(北海道)」の力強い踊りでは、低く踏みしめるような足取りや腰の動きで踊ることができる。	・日本の民謡のポイントがわかり、自分の課題の解決策を考えたり、課題に応じた見合いや交流の仕方などを選んでいく。 ・踊りの特徴を捉えているかなどを確認するための仕方を選んでいる。 ・課題の解決のために友達と見合ったところを他者に伝えている。 ・ペアのグループやクラス全体で踊り、日本の民謡で身に付けた踊りの特徴が出ているかを伝えている。	・日本の民謡で交流したりする運動に積極的に取り組んでいる。 ・日本の民謡に取り組む際に、互いの動きや考えのよさを認め合っている。 ・日本の民謡にグループで取り組む際に、仲間と助け合っている。 ・日本の民謡を行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たしている。 ・踊る場所の危険物を取り除くとともに、仲間とぶつからないよう、場の安全に気を配っている。
6月	ハードル走		・ハードルの間を3歩のリズムで調子よく走り越して、記録に挑戦したり競走したりする。	・ハードル走の行い方がわかる。 ・第1ハードルを決めた足で踏み切って走り越えることができる。 ・スタートから最後まで、体のバランスをとりながら真っ直ぐ走ることができる。 ・インターバルを3歩または5歩で走ることができる。	・ハードル走のポイントがわかり、自分の課題を見付けている。 ・自分の課題に適した練習方法や練習の場を選んでいる。 ・自分の能力に適した競争のルールや記録への挑戦の仕方を選んでいる。 ・ハードル走のポイントや友達のよい動きなどを、学習カードに記入したり、振り返りの時間に発表したり、感想文を書いたりしている。	・ハードル走に積極的に取り組んでいる。 ・ルールやマナーを守り、仲間と助け合っている。 ・用具の準備や片付け、計測や記録などで、分担された役割を果たしている。 ・勝敗を受け入れている。 ・課題を見付けたり、その解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めている。 ・ハードル走の場の危険物を取り除くなど、用具の安全に気を配っている。

6月	走り高跳び	4	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムカルな助走から力強く踏み切って高く跳び、自分の記録に挑戦したり、走り高跳びの競争をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・走り高跳びの行い方がわかる。 ・5～7歩程度のリズムカルな助走をすることができる。 ・上体を起こして力強く踏み切ることができる。 ・はさみ跳びで、足から着地することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・走り高跳びのポイントがわかり、自分の課題を見付けている。 ・自分の課題に適した練習方法や練習の場を選んでいく。 ・自分の能力に適した競争のルールや記録への挑戦の仕方を選んでいる。 ・走り高跳びのポイントや友達のよい動きなどを、学習カードに記入したり、振り返りの時間に発表したり、感想文を書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・走り高跳びに積極的に取り組んでいる。 ・ルールやマナーを守り、仲間と助け合っている。 ・用具の準備や片付け、計測や記録などで、分担された役割を果たしている。 ・勝敗を受け入れている。 ・課題を見付けたり、その解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めている。 ・走り高跳びの場の危険物を取り除いたり、整備したりするとともに、用具の安全に気を配っている。
6月～9月	水泳運動	10	<ul style="list-style-type: none"> ・安全確保に繋がる動きができるようになる。クロールや平泳ぎ。 	<ul style="list-style-type: none"> 【クロール】 ・クロールの行い方がわかる。 ・心は、感情、社会性、思考力など様々なはたらきの総体として捉えることができる。 ・心は多くの人の関わりや自然とのふれあいなど様々な生活経験や学習を通して、年齢に伴って発達することがわかる。 ・心が発達することで、自分の感情をコントロールしたり、相手の気持ちや立場を理解したりすることができるようになることや筋道を立てて考えたりすることができるようになることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードや掲示物などを活用して、水泳運動のポイントと自分や仲間の泳ぎのポイントを自分や仲間と比べていく。 ・心はどのように成り立っているのかを調べたり、心は体のどこにあるのかを考えたりして、説明している。 ・心（感情、社会性、思考力など）は、どのように発達してきたのか、小さいころの自分と比べて考え、説明している。 ・自分の心はどんなことを通して発達してきたのか、自分の経験を振り返って人との関わりなどから考え、他者に伝えている。 ・よりよく心を発達させるための自己の課題を見付け、これからどんなことをしてみたいかを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水泳運動が自己保全のために必要であることを生かし、クロールや平泳ぎの泳ぎやそのはたらきに関心をもち、心が自分の小さいころと比べてどのように変わってきたか、進んで小さいころを思い出して比較しようとしている。 ・自分の感情をコントロールしたり、相手の気持ちや立場を理解したり、自分の気持ちをうまく相手に伝えたりして、心をより豊かにしようとしている。 ・自己の気持ちを上手に伝えられるようになろうとするなど、他者とよりよいコミュニケーションを取れるようになろうとしている。
7月	心の発達	1	<ul style="list-style-type: none"> ・心は、人との関わり、あるいは自然とのふれあいなど、様々な生活経験や学習を通して、年齢とともに発達することを理解できるようにする。 ・心の発達について、自己の経験と学習したことを関連付けて、よりよく発達させる適切な方法を考えることができるようにする。 ・心の発達について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安や緊張時には、動悸が激しくなったり、腹痛を起こしたりすること、体調が悪いときには、集中できなくなったり、落ち込んだ気持ちになったりすること、体調がよいときには、気持ちが明るくなったり、集中できるようになったりすることなど、心と体は深く影響し合っていることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊張したときや、うれしいときに体の状態がどうなるかを考え、説明している。 ・睡眠不足や適切な運動をしたときに心の状態がどうなるかを考え、説明している。 ・心と体はどのようにつながっているのかを調べ、発表している。 ・自分のふだんの生活の中で、心と体が影響し合っていると思うことについて考え、記している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心配事があったときや緊張したときの体調の変化や、体の調子が悪かったとき・よかったときの心の状態を、自分の経験に照らし合わせて具体的に思い出そうとしている。
7月	心と体のつながり	1	<ul style="list-style-type: none"> ・心と体の関わりを知り、心と体は深く影響し合っていることを理解できるようにする。 ・心と体の関わりについて、自己の経験と学習したことを関連付けて考えることができるようにする。 ・心と体の関わりについて資料を見たり、生活を振り返ったりするなど、意欲的に学習活動に取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安や緊張時には、動悸が激しくなったり、腹痛を起こしたりすること、体調が悪いときには、集中できなくなったり、落ち込んだ気持ちになったりすること、体調がよいときには、気持ちが明るくなったり、集中できるようになったりすることなど、心と体は深く影響し合っていることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊張したときや、うれしいときに体の状態がどうなるかを考え、説明している。 ・睡眠不足や適切な運動をしたときに心の状態がどうなるかを考え、説明している。 ・心と体はどのようにつながっているのかを調べ、発表している。 ・自分のふだんの生活の中で、心と体が影響し合っていると思うことについて考え、記している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心配事があったときや緊張したときの体調の変化や、体の調子が悪かったとき・よかったときの心の状態を、自分の経験に照らし合わせて具体的に思い出そうとしている。
7月	不安やなやみがあるとき	1	<ul style="list-style-type: none"> ・不安や悩みへの対処には、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動をするなどいろいろな方法があることを知り、呼吸法などの対処のしかたをできるようにする。 ・不安や悩みに対処する様々な方法を考え、学習したことを活用して、適切な方法を選ぶことができるようにする。 ・不安や悩みの対処法を進んで考え、意欲的に学習活動に取り組むことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不安や悩みがあるということは誰もが経験することであり、そうした場合には、家族や先生、友達などと話したり、相談したりすること、仲間と遊ぶこと、運動をしたり音楽を聴いたりすること、呼吸法を行うことなどによって気持ちを楽にしたり、気分を変えたりするなど様々な方法があり、自分に合った適切な方法で対処できることを理解している。 ・自己の心に不安や悩みがあるという状態に気付くことや不安や悩みに対処するために様々な経験をするとは、心の発達のために大切なことを理解している。 ・不安や悩みへの対処として、体ほぐしの運動や深呼吸を取り入れた呼吸法などを行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の悩みにはどんなものがあり、どんなことについていちばん悩んでいるのかを調べ、他者に伝えている。 ・不安や悩みへの対処法にはどんなものがあるのかを話し合い、自分に合った適切な対処法はなにかを考え、選択している。 ・心や体の緊張を和らげるための深呼吸を試し、深呼吸する前と後ではどんな変化があるのかを説明している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな悩みの例に注目し、自分も同じような悩みはないか照らし合わせるなど、それぞれの項目に関心をよせている。 ・不安や悩みの対処の仕方に関心をもち、自分に合った対処の仕方を選んで考えようとしている。
9月	マット運動	6	<ul style="list-style-type: none"> ・できる技を安定して行ったり、できそうな技に挑戦したり、技を組み合わせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動のいろいろな技の行い方がわかる。 ・自分の力に合った回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりすることができる。 ・選んだ技を自己やグループで繰り返すことができる。 ・技を選んでそれらにバランスやジャンプなどを加えて組み合わせたり、ペアやグループで動きを組み合わせたりして演技をつくったりできる。 ○開脚前転 ○補助倒立前転（更なる発展技：倒立前転） ○伸膝後転 ○倒立ブリッジ ○ロンダート ○頭はね起き ○補助倒立 	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動のポイントを理解し、自分や友達の動きを照らし合わせて課題を見付けていく。 ・見付けた課題を解決するために、複数の場の中から自分の課題に適した練習の場を選んでいく。 ・グループの中で観察し合ったり、学習カードやICT機器を活用したりして見付けた、演技のこつやわかったことを、文字や図で書いたり映像を活用して発表したりするなどして伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・マット運動の基本的な技や発展技、それらの技を組み合わせることに積極的に取り組んでいる。 ・互いの役割を決めて観察し合うなど、学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合っている。 ・器械・器具の準備や片付けなど、分担された役割を果たしている。 ・技や演技を行うなかでわかったことを伝えたり、課題の解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めている。 ・けがのないように、互いの服装や髪形に気を付けたり、場の危険物を取り除いたりするとともに、試技の前後などに器械・器具の安全に気を配っている。

10月	鉄棒運動	3	<ul style="list-style-type: none"> ・できそうな技に挑戦したり、できる技を組み合わせたりして、鉄棒運動を楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒運動のいろいろな技の行い方がわかる。 ・自分の力に合った支持系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりできる。 ・選んだ技を自己やグループで繰り返し、組み合わせたりすることができる。 ○前方支持回転 ○片足踏み越し下り ○膝掛け上がり ○前方も掛け回転 ○逆上がり ○後方支持回転 ○後方も掛け回転 ○両膝掛け振動下り 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒運動のポイントを理解し、自分や友達の動きを照らし合わせて課題を見付けている。 ・見付けた課題を解決するために、複数の場の中から自分の課題に適した練習の場を選んでいる。 ・グループの中で観察し合ったり、学習カードやICT機器を活用したりして見付けた、演技のこつやわかったことを、文字や図で書いたり映像を活用して発表したりするなどして伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄棒運動の基本的な技や発展技、それらの技を組み合わせることに積極的に取り組んでいる。 ・互いの役割を決めて観察し合うなど、学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合っている。 ・器械・器具の準備や片付けなどで、分担された役割を果たしている。 ・技や演技を行うなかでわかったことを伝えたり、課題の解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めている。 ・けがのないように、互いの服装や髪形に気を付けたり、場の危険物を取り除いたりするとともに、試技の前後などに器械・器具の安全に気を配っている。
10月	走り幅跳び	4	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムカルな助走から力強く踏み切って遠くへ跳び、自分の記録に挑戦したり、走り幅跳びの競争をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・走り幅跳びの行い方がわかる。 ・7～9歩程度のリズムカルな助走をすることができる。 ・幅30～40cm程度の踏切りゾーンで力強く踏み切ることができる。 ・かがみ跳びから両足で着地することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・走り幅跳びのポイントがわかり、自分の課題を見付けている。 ・自分の課題に適した練習方法や練習の場を選んでいる。 ・自分の能力に適した競争のルールや記録への挑戦の仕方を選んでいる。 ・走り幅跳びのポイントや友達のよい動きなどを、学習カードに記入したり、振り返りの時間に発表したり、感想文を書いたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・走り幅跳びに積極的に取り組んでいる。 ・ルールやマナーを守り、仲間と助け合っている。 ・用具の準備や片付け、計測や記録などで、分担された役割を果たしている。 ・勝敗を受け入れている。 ・課題を見付けたり、その解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めている。 ・走り幅跳びの場を整備したりするなど、用具の安全に気を配っている。
10月	跳び箱運動	5	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな技に挑戦し、美しく安定した跳び方ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱運動のいろいろな技の行い方がわかる。 ・自分の力に合った切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技に取り組んだりすることができる。 ○かかえ込み跳び(更なる発展技:屈身跳び) ○伸膝台上前転 ○頭はね跳び(更なる発展技:前方屈腕倒立回転跳び) 	<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱運動のポイントを理解し、自分や友達の動きを照らし合わせて課題を見付けている。 ・見付けた課題を解決するために、複数の場の中から自分の課題に適した練習の場を選んでいる。 ・グループの中で観察し合ったり、学習カードやICT機器を活用したりして見付けた、演技のこつやわかったことを、文字や図で書いたり映像を活用して発表したりするなどして伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・跳び箱運動の基本的な技や発展技、それらの技を組み合わせることに積極的に取り組んでいる。 ・互いの役割を決めて観察し合うなど、学習の仕方や約束を守り、仲間と助け合っている。 ・器械・器具の準備や片付けなどで、分担された役割を果たしている。 ・技や演技を行うなかでわかったことを伝えたり、課題の解決方法を工夫したりする際に、仲間の考えや取組を認めている。 ・けがのないように、互いの服装や髪形に気を付けたり、場の危険物を取り除いたりするとともに、試技の前後などに器械・器具の安全に気を配っている。
11月	ベースボール型(Tボール)	7	<ul style="list-style-type: none"> ・攻め方や守り方を工夫して、Tボールをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Tボールの行い方がわかる。 ・止まったボールや易しく投げられたボールをバットでフェアグラウンド内に打つことができる。 ・打球方向に移動し、捕球することができる。 ・捕球する相手に向かって、投げることができる。 ・塁間を全力で走塁することができる。 ・守備の隊形をとって得点を与えないようにすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが楽しくTボールに参加できるように、プレイヤーの人数やコートの広さ、プレイの制限、得点の仕方などの規則を工夫している。 ・チームの特徴に応じた作戦を選び、自分の役割を確認している。 ・課題の解決のために、自分や友達が行っていた動き方の工夫を、動作や言葉、絵図、ICT機器を用いて記録した動画などを使って友達に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Tボールの簡易化されたゲームや練習に積極的に取り組んでいる。 ・ルールやマナーを守り、仲間と助け合っている。 ・ゲームを行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たしている。 ・ゲームの勝敗を受け入れている。 ・ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取組を認めている。 ・ゲームや練習の際に、使用する用具などを片付けたり場の整備をしたりするとともに、用具の安全に気を配っている。
1月	ネット型(ソフトバレーボール)	7	<ul style="list-style-type: none"> ・攻めの組み立て方を工夫して、ソフトバレーボールをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトバレーボールの行い方がわかる。 ・自陣のコート(中央付近)から相手コートに向けサービスを打ち入れることができる。 ・ボールの方向に体を向けて、その方向に素早く移動することができる。 ・味方が受けやすいようにボールをつなぐことができる。 ・片手、両手を使って、相手コートにボールを打ち返すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが楽しくソフトバレーボールに参加できるように、プレイヤーの人数やコートの広さ、プレイの制限、得点の仕方などの規則を工夫している。 ・チームの特徴に応じた作戦を選び、自分の役割を確認している。 ・課題の解決のために、自分や友達が行っていた動き方の工夫を、動作や言葉、絵図、ICT機器を用いて記録した動画などを使って友達に伝えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフトバレーボールの簡易化されたゲームや練習に積極的に取り組んでいる。 ・ルールやマナーを守り、仲間と助け合っている。 ・ゲームを行う場の設定や用具の片付けなどで、分担された役割を果たしている。 ・ゲームの勝敗を受け入れている。 ・ゲームや練習の中で互いの動きを見合ったり、話し合ったりする際に、仲間の考えや取組を認めている。 ・ゲームや練習の際に、使用する用具などを片付けたり場の整備をしたりするとともに、用具の安全に気を配っている。

2月	ゴール型(フ ラグフット ボール)	7	・攻め方や守り方を工夫し て、フラッグフットボールをす る。	・フラッグフットボールの簡易化されたゲーム の行い方を知っている。 ・ボールを持って相手を振り切ることができる。 ・ボールを持たない時に意図的、効果的な サポートの動きをすることができる。	・誰もがゴール型の楽しさや喜びに 触れることができるよう、プレー上 の制限、得点の仕方などのルール を選んでいる。 ・効果的な攻め方を知り、自分の チームの特徴に応じた作戦を立て ている。 ・課題の解決のために、自分や友 達が行っていた動き方の工夫を、動 作や言葉、絵図、ICT機器を用いて 記録した動画などを使って友達に 伝えている。	・フラッグフットボールの簡易化され たゲームや練習に積極的に取り組 んでいる。 ・ルールやマナーを守り、仲間と助 け合っている。 ・ゲームを行う場の設定や用具の 片付けなどで、分担された役割を 果たしている。 ・ゲームの勝敗を受け入れている。 ・ゲームや練習の中で互いの動き を見合ったり、話し合ったりする際 に、仲間の考えや取組を認めてい る。 ・ゲームや練習の際に、使用する 用具などを片付けたり場の整備を したりするとともに、用具の安全に 気を配っている。
3月	事故やけがの 原因	1	・けがや事故は人の行動と周 りの環境が原因で起こり、人 の行動はそのときの心の状 態や体の調子と関係している ことを理解できるようにする。 ・けがや事故が起こる原因を 人の行動と周りの環境に分 け、説明できるようにする。 ・けがや事故が起こる原因に ついて資料を見たり、生活を 振り返ったりするなど、積極 的に学習活動に取り組むこと ができるようにする。	・毎年多くの交通事故や水の事故が発生し、 けがをする人や死亡する人が少なくないこと がわかる。 ・けがや事故の多くは、人の行動と周りの環 境が原因で起こっていることがわかる。 ・人の行動は、慌てていた、疲れていたなど、 そのときの心の状態や体の調子とも関係して いることがわかる。	・けがや事故は何が原因で起こ るのか調べ、説明している。 ・学校生活でのけがは、いつどこで 多く起こっているのかを知り、その 理由を人の行動と環境から説明し ている。 ・様々な状況におけるけがや事故 が起こる原因を人の行動と周りの 環境に分けて考え、説明している。	・学校生活や日常の生活での事故 やけがの原因に関心をもち、危険 予測に進んで取り組もうとしてい る。 ・事故やけがの起こり方の原則に 照らし合わせて危険予測をし、い ろいろな場面での事故やけがの具 体的な原因を進んで探ろうとしてい る。
3月	学校や地域で のけがの防止	1	・学校や地域でのけがの防止 には、周囲の危険に気づくこ と、的確な判断の下に安全に 行動すること、安全な環境を 整えることが必要であることを 理解できるようにする。 ・自分のけがに関わる経験を 振り返り、危険の予測や回避 の方法を考え、説明できるよう にする。 ・学校や地域でのけがの防止 について、生活を振り返ったり、 危険の予測や回避の方法を考え たりするなど、積極的に学習に 取り組むことができるようにす る。	・学校や地域でのけがを防ぐには、ルールを 守るとともに、危険を予測して、正しい判断を し、安全な行動をとることが大切であることが わかる。 ・学校や地域でのけがを防ぐには、危険な場 所の点検や修理などを通して、安全な環境を つくることも必要であることがわかる。	・けがにつながる「かくれた危険」を 見つけ、その理由を説明している。 ・どうすれば学校や地域でのけがを 防ぐことができるのかを調べ、説明 している。 ・ある場面にどんな危険が潜んで いるのか危険の予測をし、安全な行 動の仕方を考え、記している。 ・学校や地域では危険を防ぐため にどのような安全な環境づくりが行 われているのかを調べ、発表してい る。	・けがの防止の原則に関心をもち、 学校生活で危険を予測した様々な 場面について、進んであてはめて みようとしている。 ・学校や地域、家庭における安全 な環境づくりについて、どのよう な工夫や備えをしているのか、進 んで調べようとしている。
3月	交通事故の防 止	1	・交通事故の防止には、周囲 の危険に気づくこと、的確な 判断の下に安全に行動するこ と、安全な環境づくりが必要 であることを、理解できるよう にする。 ・自己の周囲の環境を振り返 り、危険の予測や回避の方法 を考え、説明できるようにす る。 ・交通事故の防止について、 生活を振り返ったり、危険の 予測や回避の方法を考えたり するなど、積極的に学習活動 に取り組むことができるよ	・交通事故の防止には、学校や地域でのけ がの防止と同じように、危険を予測し、正しい 判断をして安全な行動をとることが大切であ ることがわかる。 ・交通事故を防止するために様々な環境づく りが行われていることがわかる。	・交通事故はどんな場所で、どんな ときに起こりやすいのかを理解し て、説明している。 ・ある場面における交通事故の危 険を予測し、事故にあわないための 安全な行動を考えて、記している。 ・交通事故を防ぐための安全な環 境づくりとしてカーブミラーや横断禁 止の標識をどこに設置すればよい のかを考え、その理由を説明してい る。 ・自分の家の近くや通学路で交通 事故が起きそうな場所を思い浮か べて、交通事故を防ぐ安全な行動 を考えて、その理由を書いている。	・危険を予測した場面の中から、交 通事故に関連した危険な場面での 行動の仕方について、けがの防止 の原則に進んであてはめてみよう としている。
3月	犯罪被害の防 止	1	・犯罪被害にあわないため には、犯罪が起こりやすい場所 を避けることや、犯罪に巻き 込まれそうになったらすぐに 助けを求めることが必要であ ることを理解できるようにす る。 ・犯罪被害から身を守るため に、危険を予測し、回避の方 法を考えて、説明できるよう にする。 ・犯罪被害の防止について、 課題の解決に向けての話し 合いや発表などの学習活動 に、積極的に取り組むことが できるようにする。	・犯罪から身を守るには、犯罪被害にあ いやすい場所を避けるなど、危険を予測し、安全 な行動をとることが大切なことがわかる。 ・犯罪被害に巻き込まれそうになったら、すぐ に逃げたり、大声で助けを求めたりするこ とが大切であることを理解している。 ・警察や地域の人々によって、危険な場所 の点検などの活動を通して安全を守るための環 境づくりが行われていることがわかる。	・小学生が誘拐や暴力などの犯罪 被害にあいやすい場所がわかり、 犯罪被害にあいやすい理由を考 え、説明している。 ・様々な場面において犯罪被害に あうとどんな危険があるのかを予測 し、犯罪被害にあわないための安 全な行動の仕方を考えている。 ・犯罪被害を防ぐための安全な環 境づくりにはどんなものがあるのか を調べ、他者に伝えている。	・自分たちが住んでいる地域にお いて、犯罪被害にあいやすい場所 はどこか、進んで調べようとして いる。 ・自分たちが住んでいる地域にお いて、犯罪被害を防ぐためにどん な安全な環境づくりが行われて いるか、進んで調べようとしている。
3月	けがの手当	1	・自らできる簡単な手当に は、傷口を清潔にする、圧迫 して出血を止める、患部を冷 やすなどの方法があることを 知り、手当ができるようにす る。 ・自分のけがに関わる経験を 振り返ったり、学習したことを 活用したりして、けがの適切 な手当の方法を考えたり、選 んだりできるようにする。 ・けがの手当について、これ までの経験を振り返ったり、 実習に取り組んだりして、積 極的に学習活動に取り組む ことができるようにする。	・けがをしたときには、けがの種類や程度など をできるだけ早く判断することが大切であるこ とを理解している。 ・軽いけがのときはすばやく自分で手当をす ることで、けがの悪化を防ぎ、治りも早くなる ことがわかる。 ・自分で手当ができない大きなけがのとき や、自分で手当ができるかどうか判断がつか ないときは、すぐに近くの大人に知らせること が大切であることを理解している。 ・自分でできる手当には、傷口を清潔にする、 圧迫して出血を止める、けがをしたところを冷 やすなどの方法があることを知り、けがに 合った適切な手当の仕方を選んで簡単な手 当ができる。	・学校で起きやすいけがをグラフか ら読み取っている。 ・けがをしたり、けがをしている人 を見たりしたときに、まず何をすれば よいのかを調べ、発表したりしてい る。 ・手当の仕方の原則を知り、い ろんなけがの手当について他者に伝 えている。	・自分が校庭でけがをしたときのこ とを想定して、どのように行動す ればよいのかを進んで考えている。